

ECMLレコード創立40周年特集
Contemporary Jazz Magazine

第33巻第11号(通算第395号)
平成21年10月14日発売
(毎月1回14日発売)

jazzlife

山中千尋ベニー・グッドマン・
トリビュート作を語る

11

【ベース特集】エレベからの発想

2009
NOVEMBER
定価 880円

KEYWORD への拘り

リチャード・ボナ
マーカス・ミラー／今沢カゲロウ
クリスチャン・マクブライド
スモール・サイズのウッド・ベース

ジャズ入門

モード・ジャズ

楽器クローズアップ

ローズ・ピアノMark 7

東京JAZZ 2009

リー・リトナー

ラーシュ・ヤンソン

エルダー

クイン・ジョンソン

バティスト・トロティニオン

アラン・トゥーサン

ケイコ・リー／鈴木良雄

中西俊博／布川俊樹

【スコア】

ティーン・タウン

マーカス・ミラー

マイルストーンズ

マイルス・デイヴィス

マイ・レヴェリー

ソニー・ロリンズ

カム・レイン・オア・カム・シャイン

ラルフ・タウナー

イン・ア・センチメンタル・ムード

ピアノ・スコア

Rhodes Piano Mark7

ローズ・ピアノ最新モデル「Mark7」を難波弘之が試弾



※今回試奏したモデルは73鍵Activeモデルです

1940年代、ハロルド・ローズによって生み出された歴史的名器、Rhodes Piano。輝きと柔らかさを併せ持ったエレクトリック・ピアノの音色は、70年代のジャズを彩り、フュージョン・シーンを開花させた。ジョー・サンプル、リチャード・ティー、チック・コリア、ボブ・ジェイムス、スティーヴィー・ワンダーなど、数多くのアーティストに愛され、数々の名曲を世に送り出す。その魅力的なサウンドが2009年ふたたび音楽シーンに戻ってきた。我々を60~70年代にタイムトリップさせるべく、ヴィンテージ・モデルを忠実に復刻したMark7のサウンドを、Rhodes Pianoの名手としても知られる難波弘之が、豊富なラインナップの中から「Mark7 Active73鍵モデル」を試奏した。

難波弘之 東京音楽大学准教授(作曲科映画放送コース)。1976年、金子マリ&バックスバニーでレコード・デビュー。以降、自己のバンドSense Of Wonder(SOW)を率いてのソロ活動のほか、山下達郎など様々なアーティストのレコーディングやライブに参加。現在、A.P.J.、野獣王国、Exh!Vision、ヌーヴォー・イミグラートなども活動中。最近作は野獣王国のライブDVD「BRAVO!」。また12月にはSOWのツアーも決定。



Mark7 73Keys Active(Red)



Mark7 73Keys Standard(Black)



Mark7 73Keys Standard(White)



「ローズ・ピアノの新製品」というよりも 「ヴィンテージ・ローズ・ピアノの新品」を弾いている印象

—難波さんはヴィンテージのローズ・ピアノを所有されているということですが、モデルは何をお持ちなのですか？

難波：僕が持っているのは、73鍵のステージ・ピアノMark1です。コントローラーが、ヴォリュームとロー・ブーストしか搭載されていないモデルですね。当時購入したもので、今でも現役ですよ(笑)。

—長年、ヴィンテージを愛用されてきた難波さんにとって、今回新しく発表された

Mark7はどのような印象でしたか？

難波：試奏して最初に感じたことは、「ヴィンテージが完璧に再現されているな」ということでした。違和感がないどころか「ああ、これこれ」と懐かしい感覚が蘇りました。それでいて、今回試奏したMark7Activeには新しく3バンドのイコライザーが搭載されていますので、音作りの幅も広がっていますね。特にミッドの効きがものすごくよくて、普通にトーン・コントロールとして使うだけ

でなく、ソロを弾く際のブースターとしても使えそうですね。

—鍵盤タッチはいかがでしたか？

難波：新型ローズのこの木製鍵盤は現代のキーボード・プレイヤーにとってある意味でちょうど良い重さかもしれません。外観は、コンテンポラリーでおしゃれなデザインになっていますが、試奏した感触としては「ローズ・ピアノの新製品」というよりも「ヴィンテージ・ローズ・ピアノの新品」を弾いている印

象です。分かりやすく言えば、ギターで「ヴィンテージの複製モデル」ってあるじゃないですか。そのローズ・ピアノ版と言えるんじゃないでしょうか。中身の音源部分は、ヴィンテージとまったく同じ構造なんですよ？

—はい。トーン・バーやピックアップなど、オリジナルとまったく同じ設計となっていて、ネジの位置や径までも忠実に再現されています。

難波:なるほど。中身が完全に再現されているうえで、上蓋が手軽に開けられるようになったことはいいですね。上蓋を開けた状態で、演奏しながらトーン・バーやダンパーの調整が行えるのは、とても便利です。僕はレコーディングでも、スタジオにあるローズ・ピアノのサウンドを曲によって調整するんです。

—ご自身で調整をされるのですか？

難波:そうですね。ピックアップとトーン・バーの距離をわずかに変えることで、微妙にサウンドのニュアンスをコントロールできます。最近の傾向として、エレクトリック・ピアノは硬めの音色が好まれています。僕は甘めの響きが好みなんです。しっかりと低域成分も出ている、まろやかな音色ですね。そういった音色を作るために、自分で調整します。ヴォリューム的に大きいと感じればマイナス方向に動かしたり、音切れが響けばダンパーの角度を変えたり。そういった調整をすべての鍵盤に対して行えるわけです。

—そういうお話を伺うと、ローズ・ピアノはエレクトリック楽器とは言え、デジタル楽器全盛の今の感覚ですと、とてもアコースティック楽器に近い感覚なんですね。

難波:そうですね。とてもアナログな楽器です。おそらく、キーボーディストならローズ・ピアノの音色を知らない人はいないと思いますが、それでも今のPCM(サンプリング)

音源の音しか知らなかったら、本物の響きは新鮮に感じるかもしれません。

—PCM音源のシンセサイザーで奏でるエレクトリック・ピアノの音色と、実物のローズ・ピアノの一番の違いは、どこにあるのでしょうか？

難波:まず、今言ったような、音色のニュアンスを変えられるという点ですよ。これはシンセサイザーではできないことです。あとは、演奏するうえでの表現力ですね。

—具体的には、どういうことですか？

難波:シンセサイザーやデジタル・ピアノを弾いて一番感じることは、ダイナミクスのコントロールが難しいということです。もちろん、シンセサイザーでも鍵盤タッチでダイナミクスは変えられますが、もっと鍵盤を強く弾いてダイナミクスをつけたいのに、すでに最大音量の音色になってしまい、それ以上に行けないということがよくあるんです。

その点ローズ・ピアノは、体感と同じダイナミクスが鳴らせるので、そこでストレスを感じることはありません。もちろん、しっかりと調整していないといつでも同じ音色が出せるわけでもありませんし、作った音色をプログラムできませんから、面倒と言えば面倒ですが、楽器は本来生き物ですから、そう思っただけでいいわけです。ギターと同じと考えれば、分かりやすいでしょうね。ギターはピックアップの位置を変えたり、弦高を調節したりして音色を決めていきますが、ローズ・ピアノも同じで、好みの音色にチューニングができるわけです。もちろん、ヴィンテージは古い物ですから、調整がしにくかったり部品が壊れる心配もありますが、このMark7シリーズは新品ですから調整もしやすい点がいいですね。Mark7シリーズが誕生したことで、改めてローズ・ピアノのアコースティック的な魅力を感じる事ができました。 ■



Rhodes Piano Mark7 Lineup

Standard

61鍵 (¥577,500[G], ¥598,500[R])
73鍵 (¥682,500[G], ¥703,500[R])
88鍵 (¥777,000[G], ¥798,000[R])
SPEC: トラディショナル・ヴォリューム、パッシブ・コントロール

Active

61鍵 (¥682,500[G], ¥703,500[R])
73鍵 (¥777,000[G], ¥798,000[R])
88鍵 (¥871,500[G], ¥892,500[R])
SPEC: ヴォリューム、トレモロ、3/バンド・イコライザー、ヘッドフォン端子

Active MIDI

61鍵 (¥777,000[G], ¥798,000[R])
73鍵 (¥871,500[G], ¥892,500[R])
88鍵 (¥966,000[G], ¥987,000[R])
SPEC: MIDIシステム、ヴォリューム、トレモロ、3/バンド・イコライザー、ヘッドフォン端子

※サイズ: 61鍵=1003(W)×210(H)×572(D)mm、73鍵=1168(W)×210(H)×584(D)mm、88鍵=1378(W)×210(H)×605(D)mm
※フィニッシュ: [G]=Glossy(光沢仕上げ)、[R]=Road Touch(ラバー・コーティング仕上げ)
※カラー: 各ブラック、レッド、ホワイト
※別売: スピーカー・プラットフォーム(¥462,000~¥682,500)、専用スタンド(¥78,750)、ツァー・ケース(¥178,500~¥252,000)

Mark7Activeの上蓋を開けたところ。トーン・ジェネレーター部分は、ヴィンテージ同様に完全なアナログ仕様で、トーン・バーやピックアップなどが完全に再現されている。



自らセットアップを行なう難波弘之。各鍵ごとに装備されたトーン・バーの位置で音色、ピックアップとの距離で音量をコントロールできるので、プレイヤーの好みに合わせてサウンドメイクが可能だ。

Activeシリーズには、3/バンド・イコライザーとトレモロ、ヴォリュームが装備されている。イコライザーのミッド・レンジは100Hz~10kHzの範囲で高周波数を設定可能。トレモロは、ステレオ出力に対応している。

デザインがリニューアルされたサステイン・ペダル。動きがスムーズになったうえ、安定感が増し、ヴィンテージよりも使用感が大きく向上している。

